

塩見岳GW山行 2005.5.1-4

メンバー

B 型		
A 型		
A 型		

会計報告

項目	金額
新宿→(高速バス)→松川 IC	¥ 3,870
松川 IC→(タクシー)→鳥倉登山口ゲート ¥12,000÷3 人=¥4,000	¥ 4,000
塩川小屋→(タクシー)→清流苑(温泉) ¥9,000÷4 人=¥2,250	¥ 2,250
清流苑→(タクシー)→松川 IC ¥1,200÷4 人=¥300	¥ 300
松川 IC→(高速バス)→新宿	¥ 3,870
食料 ¥5,100÷3 人=¥1,700	¥ 1,700
温泉入浴料	¥ 350
合計	¥16,340

行程表

5/1(日) 新宿駅西口 7:45 集合!!

新宿 →(高速バス)→ 松川 IC →(タクシー)→ 鳥沢登山口ゲート
8:00 発 11:30/11:40 13:00

鳥倉登山口ゲート → 鳥倉登山口 → 分岐 → 三伏峠
13:30 14:05/14:10 19:10 19:50

【歩行時間:6h20m??(休憩含む)】

5/2(月)

三伏峠 → 三伏山 →(水場探し(三伏沢小屋経由))→ 三伏峠
11:00 11:20 14:30/15:00

烏帽子岳 → 三伏峠
16:00/16:25 17:00

【歩行時間:4h00m??(休憩含む)】

5/3(火)

三伏峠 → 本谷山 → 塩見小屋 → 塩見岳(東峰) → 塩見小屋(昼食) →
4:50 6:15/6:25 10:30 11:30/12:00 13:00/13:35

→ 本谷山 → 三伏峠
17:00 18:20

【歩行時間:13h00m??(休憩含む)】

5/4(水)

三伏峠 → 三伏山 → 三伏峠 → 分岐 → 尾根取付点 → 塩川小屋
5:00 5:10/5:30 5:45/6:30 7:00/7:10 10:00/11:05 12:10

【歩行時間:6h30m??(休憩含む)】

塩川小屋 →(タクシー)→ 清流苑 →(タクシー)→ 松川 IC →(高速バス)→ 新宿
12:50 13:30/16:10 16:20/16:35 21:20

食料のページ

行動記錄

山行記録 塩見岳 2005.5.1-4

～冬山+夏山=春山～

まずは、ルートを振り返ろう。

1日目：鳥倉登山口ゲート～三伏峠

ゲートには駐車場があり、数台の車が停まっていた(夏には駐車場から溢れた車が林道に列を成すそうである)。ゲートを超え、緩やかな林道を登り続けると登山口に出る(入山届のポストあり)。ここからは樹林帯の中を登るが、シーズンでないこの時期はまったく整備されていないのか、所々に倒木が目立ち、登山道をさえぎっている。豊口山付近から残雪が始まり、登山道に足跡は残されているものの、非常に歩きにくい。またカラマツ等の草木を掻き分けて進むしかない箇所もある。水場とされている沢は、水の流れる音が雪の中からは聞こえてくるが、水場としての機能は果たしていない。塩川尾根との分岐は、標識が雪に埋もれていて気づきにくかったが、これより最後の急登を登りきれば、やがて右手に三伏峠小屋が見える。

※なお、三伏峠小屋では、トイレ付近なら携帯の電波が通じるようである。

2日目：三伏峠～三伏山～(三伏沢小屋)～三伏峠～烏帽子岳～三伏峠

三伏峠のテント場から登山道は伸びている。すぐに荒川岳方面と塩見岳方面への分岐に分かれるので、塩見岳方面へ進み尾根沿いを登っていけば、三伏山がある。再び分岐に戻り、水場を探そうと三伏沢小屋方面への道を探すが、確実な登山道は探し当てられなかった。しかし、樹林帯を下りきると、三叉路の分岐(烏帽子岳、三伏沢小屋(水場)、三伏峠小屋)に出た。烏帽子岳方面の登山道は雪に覆われているが、登山道自体に雪解け水が流れており、ここで水を汲むことができる。また、三伏沢小屋方面へ下ると、ホースの伸びた水場があるが水は出てこない。(おそらくここが三伏沢小屋の跡とみられるが、小屋自体は発見できなかった。すでに取り壊されていたのだろうか。ちなみにここからさらに沢まで下れば水は汲める。)

三伏峠から烏帽子岳へは、上述のルートよりは、三伏峠小屋から烏帽子岳方面へ伸びる稜線沿いのルートの方がわかりやすい。一部稜線は細いが、足跡の上をたどれば問題なく進める。稜線上にはブナやカラマツも生えているが、比較的に見晴らしはよく、やがては森林限界を超え、烏帽子岳に到着。塩見岳の眺望がよく、また南方には荒川・赤石岳へ続く稜線がよくわかる。

3日目：三伏峠～塩見岳～三伏峠

三伏峠からは、三伏山を経由し、その後カラマツの林の中を進み本谷山を目指す。本谷山山頂には特に標識もないが、塩見岳が大きく見える。本谷山を過ぎると、樹林帯にもぐる。その後、「三伏山⇄塩見岳」の標識付近に、夏山用のルートと冬山用のルートに分かれる分岐がある。どちらのルートにも赤いテープの目印が続いているが、やはりこの季節がら、所々藪の中を進むような感じである。(ちなみに私たちは権右衛門山付近で尾根沿いに出てしまい、塩見新道のルートに出てしまった。)

本谷山と塩見新道との分岐から森林限界を超え、もうひと登りすれば塩見小屋がある。塩見小

屋からの登山道はほとんど乾いており、アイゼンは不要。ここから塩見岳西峰までは急な岩稜が続くため、慎重にならざるを得ないが、登山道には目印のペンキがはっきりと残されており、これを登りきれば西峰が見える。東峰までもここからすぐ。山頂は狭いが、まさに南アルプス中央の塩見岳。360 度のパノラマの中、数多くの 3000m 級の山を目にする。そして東には富士山が、雲海の中に優雅に浮かんでいた。

4 日目：三伏峠～塩川小屋

三伏峠から塩川小屋までの登山道は、とにかく急である。昔から使われている登山道であり、道ははっきりとしているが、急な下り坂や足場の心もとない箇所もあり、ロープや滑落防止のネットなどで整備されている。塩川小屋までの距離を指す標識で「10 分の 7」を過ぎる頃には残雪も消えていた。水場のポイントでは、登山道から 1 分程度沢に下れば水を確保できる。その後は、比較的緩やかな下りが続き、沢の音が大きく聞こえてくると、尾根取付点に出る。ここからは沢沿いのルートで、所々に草花が咲いている。そして数回橋を渡れば、登山口の塩川小屋が見えてくる。(なお、塩川小屋からは携帯の電波が通じないため、ちょうど他の登山客の送迎に来ていたタクシー運転手に無線でタクシーを呼んでもらった。)

装備についても振り返っておくと…。

★これを持って行って快適だった山グッズ

- **エアマット**：とにかく暖かった。しかし炊事の際、エアマットの上でガスを使っ
てはいけません。

★これを忘れてしまって反省、という山グッズ

- **腕時計**：今回はすべて啓太郎の腕時計に頼ってしまった。反省。
- **テントのフライ**：ゴアのテントだったので、フライはなくてもよさそうだと思いきや、冬山には欠かせない!? テント場のどのテントにもフライがかかっていた。
- **リコーダー**：のんびりする日には欠かせません。

山の楽しみ方は、十人十色である。日帰りハイキング、ワンゲル、百名山めぐり、岩登り、沢登り、冬山…。しかし私はとにかく「旅」が好きなのだ。気の合う仲間とパーティーを組んで、旅の格好に身をまとい、必要な装備を背負って旅に出たいのだ。だから私の場合、何よりの山の楽しみ方は「縦走」かもしれない。

と思いきや、今回の山行は、結果として三伏峠にベースキャンプを張り、塩見岳登頂というルートになったが、どうやらそれが吉とでたようだ。下山してから他の登山客より知ったことだが、本来予定していた赤石岳から樫島ロッジまでのルートは、夏山ルートが通れず(登山道もなく、また雪崩の危険もある)、冬山ルート(ラクダの背)もザイルで安全確保を行う必要があるとのことだった。また下山後に宿泊の仮予約をしていた樫島ロッジの人にキャンセルの電話を入れると、今年は荒川岳や赤石岳を目指した人はみな引き返してきたとの話だった。それほど今年の雪は深く、ゴールデンウィークのこの時期でも慎重に見極めなければならないルートなのだ。5月上旬という夏でもなく冬でもないこの季節、夏山ルートと冬山ルートとの認識をきちんと持たなければいけないことを改めて実感させられた。

そして、シーズンの始まっていない山は、原始的でもある。それはすなわち、たとえ登山道として踏み固められた道でも、残雪や倒木により、いくらでも道迷いを冒す危険性があるともいえるのだ。そのため、今後も単独山行ではなく、そして必要な知識と装備を揃えて、入山していこう。

また、他の登山客から神奈川県山岳連盟の冬山研修を勧められた。会員でなくても一般参加も可能で、基本的な雪上訓練はもちろん、谷川岳や富士山などでもひととおりの危険な行為を体験するらしく、けが人も出るほどのレベルだそうだ。帰宅後、早速ホームページを調べてみると、確かに冬山に限らず、毎月様々なトレーニングが用意されているようである。山の技術を磨くことも怠ってはいけないことだろう。

山の準備からワクワクし、山行を終えた後でも振り返れば嬉しくなる、そんな山行を今後も繰り返したい。そのためには、私自身も入山に対する自信を持ち、そして気の合う仲間と普段からの交流を大切にしていきたいと思う。そして、行きたい山に行くこと。これも重要!!(次回の南アルプスこそ、荒川岳、赤石岳を目指すぞ!!)

それにしても、今回は思いがけない(!?)メンバーの集まりだった。次回もこのメンバーの山行はあるのか!? それは次回をお楽しみに!!

05.5.14

石川暁崇